

2022年2月22日発行

22-08号

（http://www.jremnant.com/）

現場から（最近のニュースから）

**絶望の理由**

不景気、新型コロナ、悪政、気候変動……「未来があっていいね」と大人は言うけれど、希望が持てないと言う若者と哲学者の岸見一郎氏の対話を通して、絶望しなくて良い生き方を考える記事がありました。

若者3人が、いま政治家は利権ばかり考える悪政であり、気候変動でいつ災害が起こるかわからなくて不安で、経済成長も見込めないから、将来は困窮するしかないと思えると悩みを訴えます。そこで、岸見一郎氏は、「政治家に幸せにしてもらおうと思わなくても良い。しかし、悪政とは闘うべきだから、声をあげるべきだ」と言います。若者は、自分ひとりで声をあげても、どうしようもないと思うと言いますが、岸見氏は「それでも、まず一人から始めるしかなく、一人の力は大きい。他の人にも何らかの波及効果を及ぼせるという信頼感を持つべきだ。自分を支持する仲間はいるし、そのような他の人を信頼して、力を集結するなら、国を動かすことができる」と言います。そして、アドラーのことば「共同体というのは家族という単位からその果ては惑星にまで広がる」を引用して、共同体は広いけれど、最初の単位は「私」「あなた」なので、共同体を「私」が変える力があると言います。

未来に不安しかないので「絶望」しても仕方がないとと言う若者に、岸見氏は「絶望には目的がある」と言います。つまり、なにもしないための言い訳だということです。「何もできないと思った時に、まず絶望感を作り出すことで、何もしないという決心を固める。」ので、まず「絶望してはいけない」というところに立ち戻るべきだと言われます。仕方ないと合理化してはいけないということです。とにかく、自分が生きたという事実を残すことで、後世の人に勇気を与えることもできるので、偉業を成し遂げる必要ははなく、自分が「生きていること」で、後世にも今の時代の人にも貢献できると知って、自分に価値があると思えば、課題に立ち向かう勇気が持てるということです。（2月18日東洋経済ONLINE＜将来に絶望する若者に知ってほしい幸福の捉え方＞より）

いま、絶望するしかないのは、悪政のため、不景気のため、新型コロナや気候変動によるわざわいのためなら、まず、その悪政や経済、わざわいの原因を少しでも良くするために、自分からなにかを始めて、それがまわりにも広がっていくのを期待して続けることは必要でしょう。しかし、絶望するしかない理由は、実は政治や経済、環境のせいではないのです。ですから、どんなにがんばって共同体を作って、大きな波を起こしても、結局、なにも変わらないことになります。希望を持つことができず、不幸だと思うしかないのは、実は、まったくちがう原因があります。それを知れば、まわりを変える前に、自分自身の考えが変わります。見る目が変わると、行動も変わります。絶望するしかない理由、それを正しく知って、ほんとうの希望を持って歩みはじめてみませんか。

救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。

それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。

神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス･キリストです。イエス･キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してくださり(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(Ⅰヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス･キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。

もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス･キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス･キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを

認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の

神様として受け入れます。私の罪を赦してくださり、私を救ってくださったことを感謝

いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・

キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください